



TITLE:

支部欄

AUTHOR(S):

CITATION:

支部欄. 天界 1936, 16(178): 156-157

ISSUE DATE:

1936-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167155>

RIGHT:

支 部 欄

京都支部・京星會だより (十二月)

烏丸通の並木がすつかり葉を落し肌を刺す比叡風が毎日続く。洛外の山々は銀白の衣を着け草木は巡り来る春を待つて深い眠りに入る。

○觀望例会 十二月觀望例会は十五日午後五時より大阪毎日新聞社京都支局屋上に於て百名に近い觀望者を迎へ盛大に開かれた。本部十二月例会が當日三階に於て催される事と決定し協議の結果合同して講演觀望會として公開されたのである。午後三時より望遠鏡の搬入を初め五時には十三糎反射經緯儀、十一糎反射赤道儀、十糎反射經緯儀三臺、七十五糎反射經緯儀、四十二糎屈折經緯儀の七臺が屋上にすらりと並べられる。街の中であり空は餘り良い方でなかつたが最初全機を土星へ向け數ヶ月後に消失する輪を見せ後は觀望者の希望により二重星、星團、星雲等をそれぞれ觀望せしめた。山本先生を初め稻葉、柴田、荒木の天文臺の諸先生、協會池田、高城の諸氏の御姿も見へる。來會者に天上の美を滿喫せしめ解り易く天文解説等もされ天文の夕として有意義に十時閉會された。使用の望遠鏡は全部會員所有のもので所有者の奉仕により運搬提供されたものである。

○十二月幹事會 會誌一月號が出来上り定時幹事會が二十二日(日)午後七時より四條寺町若狹屋に於て九名の出席者により開かれた。一二月の事業打合せとして年賀狀發送、伊吹山スキ行、新年懇親茶話會開催が決定され、會の經濟的困難を除き事業の圓滑旺盛を計る爲に基金課の設置、會の擴大に對應する爲に會務執行に關する規定制定がなされた。出来上つた會誌が分配され編輯方針の説明や意見の發表も行なはれる。會誌は一部分郵便により發送される他大部分は幹事から會員へ、更に會員から會員へ手渡され郵税の節約と會員間の連絡が鮮やかに行なはれ近接會員の親睦をも計られてゐるのである。新らしい年を迎へて更に理想に向つて協力奮闘する事を誓ひ合ひ十時三十分閉會。

會員狀況 十二月末京星會關係人員。顧問三氏、贊助員二氏、會員(京都市内居住)三十九名、贊同員(地方居住)十一名、合計五十五名、準會員五十七名。

◆支部堂第3號の發行

◆1月11日例会開かる

定刻18時半には早や熱心なる會員が會場たる大阪 Y. M. C. A. に詰めよせ、京都より山本會長、本部の高城氏、尼崎の津久井氏と遠來よりの參會者を始め24名の出者あり、19時開會、吉岡氏の司會にて新年茶話座談會始まる。昨年の火星觀測の經驗より來年の接近に對する觀測部への希望、美聲の詩吟、市岡支部の日食觀測隊參加希望、大阪ブラネタリウムの現況報告、發展策としての東亞天文協會の街頭進出論、天文史蹟踏査旅行談、等々と座席順に各自語り、山本會長は一々に對し懇切に應えられた。高城氏は本年中に大阪に於いて東亞天文協會の大々の民衆への接近計劃ありと話さる。次いで山本會長起たれ近代天文學はアマチュアの研究及び其の研究態度に負ふ處甚大なる事よりアマチュアと専門家の立場使命を説かれ、大いに大阪支部員諸氏に期待する處多々ありと訓話さる。最後に百濟氏起たれ、山本會長の話題を繼がれ、亦丸善や鐵道省で鐵道の専門家と誤られた話、亦ドイツでできた天文カルタの紹介をされる。一同運ばれた飲物や菓子等を味はひつゝ各個の話を聴き和氣霽々裡22時一先づ閉會、歸宅を急がぬ人々によつて尙も座談會は果て知らず續けられた。尙毎回の例會に出席者のサインを記録簿に頂く事は恒例である。

1. 日 時 2月8日(土) 18時半より
1. 會 場 大阪 Y.M.C.A. (市電土佐堀舟町下車川沿ヒ西へ3丁)
1. {天文談話會 4氏よりの研究發表(詳細支部報第4號所載)
{學者に物を聴く會 天文學に關する會員の質疑を専門家に應答を需める

全大阪支部員の出席を目標とす、他地方の方も來阪の切は御來會下さい。